

MECCだより

武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会広報紙 第35号 2014年7月

もくじ

新理事長就任にあたって	泉 浩二
ご挨拶：理事長退任にあたって	川真田直之
発展途上国における環境マネジメントシステムの認証状況と期待	稲田 昂
会員活動報告：農を健康づくりに生かすプロジェクト	中西由美子
会員活動報告：環境フォーラム2014 みず・みどり・いきもの・ひと	若林 高子



巻頭言・新理事長就任にあたって

MECC 理事長 泉 浩二

昨年の糸井理事長の急逝後、川真田氏が理事長を引き継がれ1年もしないうちに、思いがけず私が新たに理事長を引き継ぐという巡りあわせになりました。

とてもこの任にふさわしいとは思えない心境ではありますが、今はこの巡りあわせを前向きに捉え、何とか2年間の職責を果たさねばと考えております。

環境カウンセラーには、事業者や市民等「全ての主体が環境保全活動に参加する社会の実現」に貢献することが求められています。この「環境」は対象も広がりも多岐にわたりますが、さらに「経済」、「社会」をも視野にいたした持続可能社会に向けた取り組みが求められます。

MECC会員は、現役で働いている方もあり、また広く多摩地域に点在し、それぞれのテーマをもって地元で活動されていること等からMECCとしての日常的な活動は思うに任せない状況です。



泉新理事長(中央) ラオス芸術教員養成短大にて

一方、MECCの会員数は50人を超えるまでに増え、多様な専門性、バックグラウンドを持った会員を擁するという強みがあります。これを生かして、会員にも地域の方々にも「参加してよかった！」とっていただける活動ができればと考えます。

地域の市民・事業者向けの活動を両輪として「地球規模で考え、地域で行動」につながる広い意味での環境教育活動を展開できればと思います。皆様の一層のご支援をよろしくお願いいたします。

ご挨拶: 理事長退任にあたって

川真田 直之

常々、受け持っていた総務関連の業務と副理事長職を、若い会員にお願いしようと思っていた矢先、糸井前理事長が急逝され、ピンチヒッターで理事長をお引き受け致しました。

私には糸井前理事長のような才能はなく、それまでに取り掛かっていたプロジェクトを引き継いで完遂することが精一杯でした。理事の任期が切れるのを幸いに、理事長の仕事も退いて、若い有能なメンバーに引き継いで頂けて、晴れやかな気持ちになれました。

MECCの会員も高齢化が進み、亡くなる方や、ご病気で倒れる方も増えていますが、世代交代することにより、泉理事長を中心に活気のある会への変身を期待しています。



今後は、会員間の横の連携を強くし、更に他の協議会の環境カウンセラーとの共通事項に関する連携を深め、会員個人の関心事をより大勢で共有して活動し、大きな影響力を及ぼすことを切望します。

発展途上国における環境マネジメントシステムの認証状況と期待

稲田 昂

私は、環境省の国際貢献の一事業として、本年(2014年)初めの3か月間に3回エコアクション21をモデルとした中小企業向けの環境マネジメントシステム(以下EMS)の普及可能性調査のためにマレーシアを訪問しました。調査の結果は公表されていないため、詳細な内容の説明は控えますが、マレーシア以外の情報を含めて、発展途上国における中小企業向けEMSの普及の期待や感想を述べたいと思います。エコアクション21(以下、EA21)、エコステージ、KESと言ったEMSの認証登録制度は、日本国内で約15年前から始まり、これまでに1万社を超える中小の事業者が参加しています。欧州では欧州議会が定めたEMAS(Eco-Management and Audit Scheme)と言う認証登録制度がありますが、発展途上国ではISO14001のみが存在しているようです。

ISO9001やISO14001と言ったマネジメントシステムの事業者への普及は品質や環境を直接的によくすることのみならず、他の組織と共通したツールを持つことでもあり、経営を管理し、改善することに役立っています。発展途上国の中小企業向けEMSが普及する下地としてISO14001、9001の認証取得状況、人口、GDPが参考になると思いますので、主な8か国について各数値を表にしてみました。日本ではEA21制度発足より約10年で約8千件の事業者の登録状況です。発展途上国でも費用やシステム構築・運用に工数のかかるISO14001でなくとも簡易なEMSの制度化が望まれる下地はあるはずです。

中小企業向けのEMSが発展途上国で普及していくためには、参加事業者があること、制度を運営する機関があること、審査人がいることのバックボーンが必要ですが、これらの経験がある日本が発展途上国を支援し、多数の事業者が参加することになれば、大きな国際貢献になると思われます。

私の訪問したマレーシアに関しては、あちこち工事中で、建物、道路などが整備されつつあり、まさに発展途上という感じです。自動車道路網はよく整備されており、個人の住宅も日本に比べて数倍も大きいのが多く、日本人の生活よりも豊かな人も多くいるのではという印象を受けました。一年中夏のような気候ですが、緑地率が高く、大都市でも森がたくさんあります。しかし廃棄物の放置、河川等水質の汚れ、省エネ・省資源と言った環境面ではまだたくさん問題があると実感しました。

アジア主な国の認証状況、人口、GDP

	ISO14001 (2012年)※	ISO9001 (2012年)※	人口(2011年 推計百万人)	GDP(2013年 10億USドル)	一人あたり GDP(US\$)
中国	91,590	334,032	1,349	9,181	6,806
日本	27,774	50,339	127	4,901	38,591
韓国	11,479	25,706	48	1,221	25,438
タイ	3,034	8,711	69	387	5,609
台湾	2,042	8,378	23	489	21,261
マレーシア	1,906	11,746	28	312	11,143
インドネシア	1,035	5,392	240	870	3,625
フィリピン	562	1,904	104	272	2,615
合計(8か国)	139,422	446,208			

出典 ※は ISO Survey より、他はホームページより

会員活動報告：農を健康づくりに活かすプロジェクト

中西 由美子

日野市では「市民による都市農業研究会」というグループが6年前に発足し、都市域で農地を残すために市民は何ができるかというテーマを、勉強会や見学会を通じて追いかけてきた。私もそのグループの事務局として活動してきた。昨年度、本研究会で農水省の交付金事業に「農を健康づくりに活かすプロジェクト」として応募した結果、採用され、昨年8月から今年3月までこの事業に携わった。

この事業の柱は次の2本である。①65歳以上の参加者12名に約3か月半の期間、週2回、農作業に参加してもらい保健指導も受けてもらった。その開始時と終了時に健康診断を行い、健康への寄与について調べた。②地場野菜を皮ごと・芯ごと食べることによる栄養的価値を食品分析により調べた。また、このような食べ方によるレシピ集を作成した。これら①②のプログラムを、医療機関、地域の大学、専門家、農業従事者等の多様な主体と協力しながら実施した。この2本柱を通して、農地を作物の生産の場だけでなく、健康づくりやコミュニティづくりに寄与する地域の新たな場として活用することを目指している。この取り組みは、高齢者の健康増進により、将来の医療費増大を抑える一方策として注目されている。



農作業風景

3か月半にわたる参加者12名のプログラム実施後の健康診断の結果、高血圧による合併症のリスクが高かった人が4人から1人に減少し、腎臓・肝臓疾患の予備軍だった人の数も減少した。また、「体重が減少」「坂道や階段を上るのが楽になった」「仲間と声を掛け合うことによって継続できた」という参加者からのアンケート結果も得られた。これらの試行を通して、農地に健康づくりやコミュニティづくりといった新たな機能を与え、地域に欠かせない重要な場として保全する機運を高めたいと考えている。

また、地場野菜の食品分析の結果、大根やニンジンなどの皮の部分にミネラルが多く含まれていることがわかった。この栄養豊富な皮や芯も使った美味しい野菜の料理、メニューを考案し、レシピ集のパンフレットを作成した。

先日6月15日に、市内外の方々を対象にこれらの活動成果報告会を行った。農地での健康づくり参加者12名のうち5名に来てもらい、体験談や感想を話してもらった。参加者は皆「楽しく実行できた」と、仲間と一緒に頑張ることの喜びについて語っていた。このような活動が市民側から主体的に起こり、行政やその他の主体との連携をコーディネートするという活発な市民活動は、日野市に昔から息づいているものである。今年度も引き続き交付金事業に本プロジェクトが採用されたため、この輪をさらに市内に広める活動を実行していくために現在準備を開始している。



レシピ集表紙

会員活動報告：環境フォーラム2014 みず・みどり・いきもの・ひと ～住み続けたいまち小金井～

若林 高子

本年3月19日～22日、小金井市環境市民会議と小金井市の共催による環境フォーラムが、小金井市民交流センターで開催され、期間中、約800名が参加しました。このフォーラムは、それぞれの分野で活動する市民団体、学校、行政が展示、発表を行い、住み続けたいまちづくりにつなげて行こうとするものです。「震災後の暮らしを考える」の一環として始まった福島県いわき市勿来地区との交流が縁で、岩間町からの特別参加もあり、「岩間町サロン」を設けて手仕事のワークショップも行われ、相互の交流を深めることが出来ました。私は単に受付を手伝っただけで、活動報告というより参加報告ですが、成功裡に終了し、環境への意識や関心がより深まったと思います。

盛りだくさんのイベントだけに、私が見聞したもののしか紹介できませんが、シンポジウム「見つめよう！みず・みどり・いきもの・ひと」は、従来の上から目線の講演などとは、ひと味違う、新しい取り組みでした。



第一部「こどもの眼から」では、小学4年、6年、中学2年生の調べた身近な川の水質や虫の詳細なスケッチなどの報告、第二部「おとなの眼から」では、多摩科学技術高校の調査活動、東京学芸大学での「農」による環境教育の実践、小金井環境市民会議の「まち歩きからの発見」など、それぞれの年代や立場に合わせた報告が行われ、第一部・第二部の発表後に行われた講演が、より分かりやすいものになりました。

今の子ども達はパソコンやインターネットを通して、さまざまな情報を入手し、大人よりはるかに豊かな夢を追いかける環境にあり、未来に大きな可能性があることを、改めて認識させられました。

また、ドキュメンタリー映画「もったいない！」（ドイツ映画）は、世界の先進国で大量の食糧が廃棄されていくプロセスやその影響の大きさ、ますます広がる貧富の格差などが映し出され、この状況を変えない限り、地球は滅びかねないと警鐘を鳴らす映画でした。ぜひ各地で上映されることを願っております。

最終日には、「いわき勿来地区からの報告と交流会」が行われ、前半は「震災後の復興の現状とこれから」についての映像での紹介、後半は立食パーティ。展示各団体からの自己紹介（1分スピーチ）などで、小金井にはさまざまな団体がいろんなテーマを掲げて活動していることを知りました。今後、さらに大きな輪に広がることを期待しています。

編集後記

泉理事長以下新体制での2014年度のMECC事業活動がスタートしました。今後の活動にご期待いただきたいと思います。また稲田会員より中小企業向けEMSの海外普及活動の状況について寄稿していただきました。エコアクション21の普及活動は、当会においても重要な活動の一つでもあります。このような制度が海外においても普及されていくことが期待されます。

発行者：NPO 武蔵野多摩環境カウンセラー協議会(MECC)事務局
〒189-0026 東村山市多摩湖町3-5-11 泉 浩二
TEL：042-391-2239
ホームページ：<http://www.mecc.or.jp/>

編集者：望月 眞